

**男女共同参画社会づくりのための意識調査
概要版**

平成22年3月

大分県

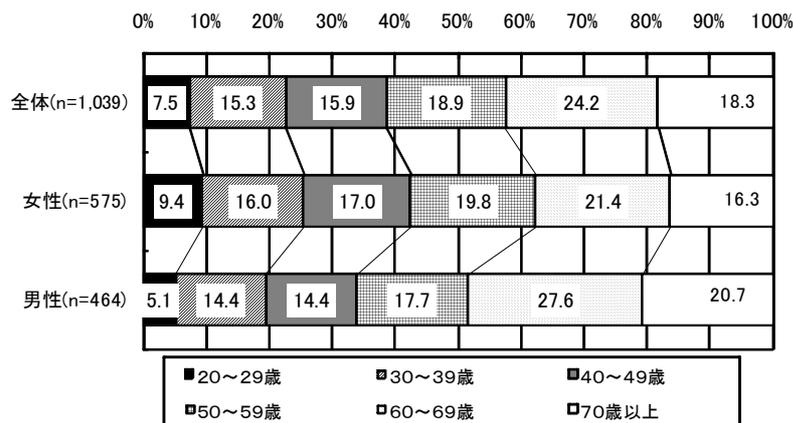
目次

1. 男女平等に関する意識	
◆「男は仕事、女は家庭」という考え方に45.3%が「同感しない」	1
◆多くの場面で男性の優遇感が強い	2
2. 家庭について	
◆家事・育児などへの男性の参加を進めるために必要なこと	3
3. 仕事について	
◆男性が育児休業などを取ることは賛成だが、現実には取りづらい	4
◆女性が仕事を続けていくために必要な支援は	4
4. 地域活動について	
◆女性が活動しにくい意識や慣習	5
5. 子どもの教育について	
◆女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよいか	5
6. ドメスティック・バイオレンス（DV：夫婦・恋人間の暴力）について	
◆全体の6人に1人が被害体験あり	6
◆相談は「家族・親族」「友人・知人」	6
◆「相談するほどのことではない」「自分にも悪いところがある」という意識	7
7. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	
◆女性の4割が被害を体験	7
8. 男女共同参画社会の実現に向けて	
◆家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくり	8

調査概要

- 目的：本調査は、社会経済情勢の急激な変化や個人の生き方の多様化により変化している、男女共同参画についての県民の意識や実態を把握することを目的として実施したものである。
- 調査対象：県内に居住する20歳以上の男女3,000人
- 調査期間：平成21年7月1日～8月31日
- 回収状況：1,043人（有効回収率34.8%）
女性575人、男性464人（性別不明4人）

〈内 訳〉



用語説明

「男女共同参画社会」

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野の活動に参画し、均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会

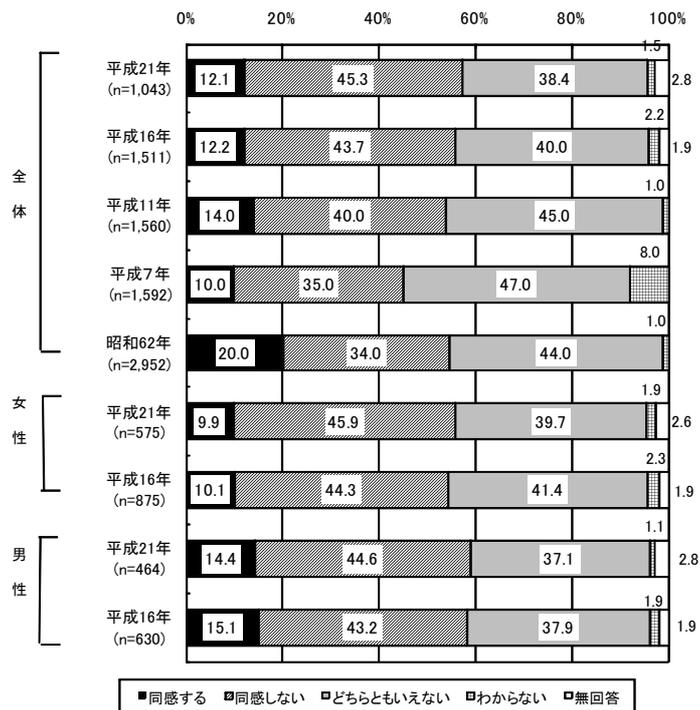
1. 男女平等に関する意識

◆ 「男は仕事、女は家庭」という考え方に45.3%が「同感しない」

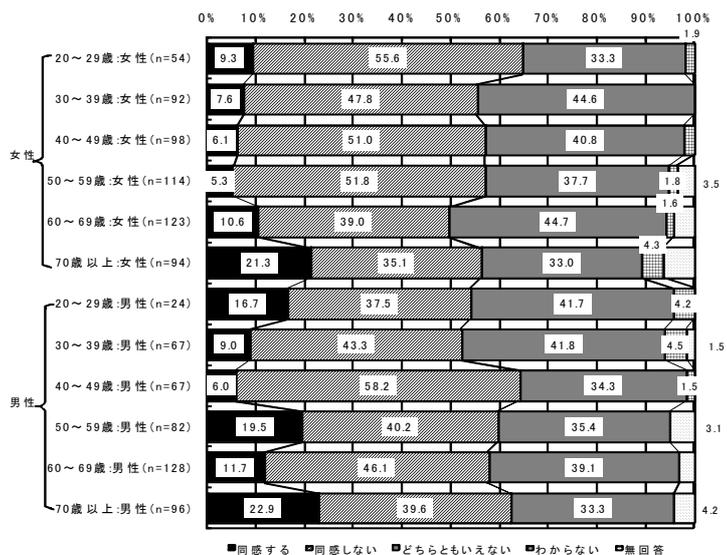
「男は仕事、女は家庭」など性別によって役割を固定する考え方について、「同感する」との回答は、女性の9.9%に対し、男性は14.4%です。

一方「同感しない」の割合は、昭和62年以来一貫して増加し、平成11年調査で初めて4割となりました。今回の調査でも女性45.9%、男性44.6%と男女ともに半数近くを占めており、少しずつ意識が変わっていることがうかがえます。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について（単一回答）



年齢別に「同感する」と答えた人の割合を見ると、女性は70歳代(21.3%)が一番高く、次いで60歳代(10.6%)、20歳代(9.3%)でした。男性は70歳代(22.9%)、次いで60歳代(19.5%)、20歳代(16.7%)です。男女とも3番目が20歳代となっています。

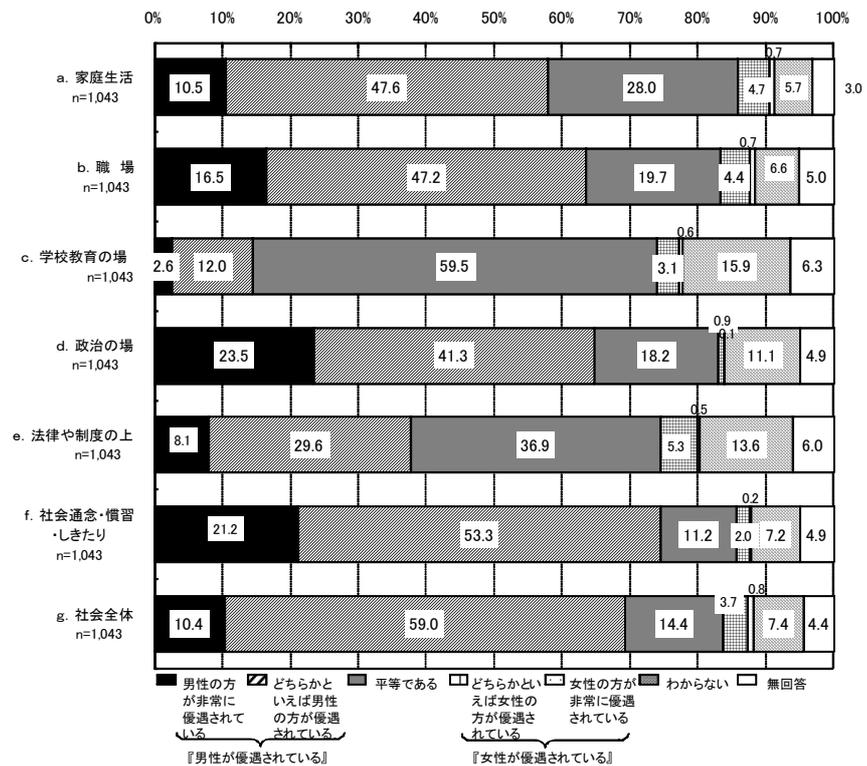


◆ 多くの場面で男性の優遇感が強い

「学校教育の場」、「法律や制度の上」以外の場面では、いずれも「男性が優遇されている」の割合が6割から7割を占めています。

平成21年内閣府世論調査と比較すると、各項目について「男性が優遇されている」は本県調査とほぼ同様の割合でしたが、「家庭生活」においては本県では58.1%と内閣府調査の46.5%に比べ高い数値となりました。

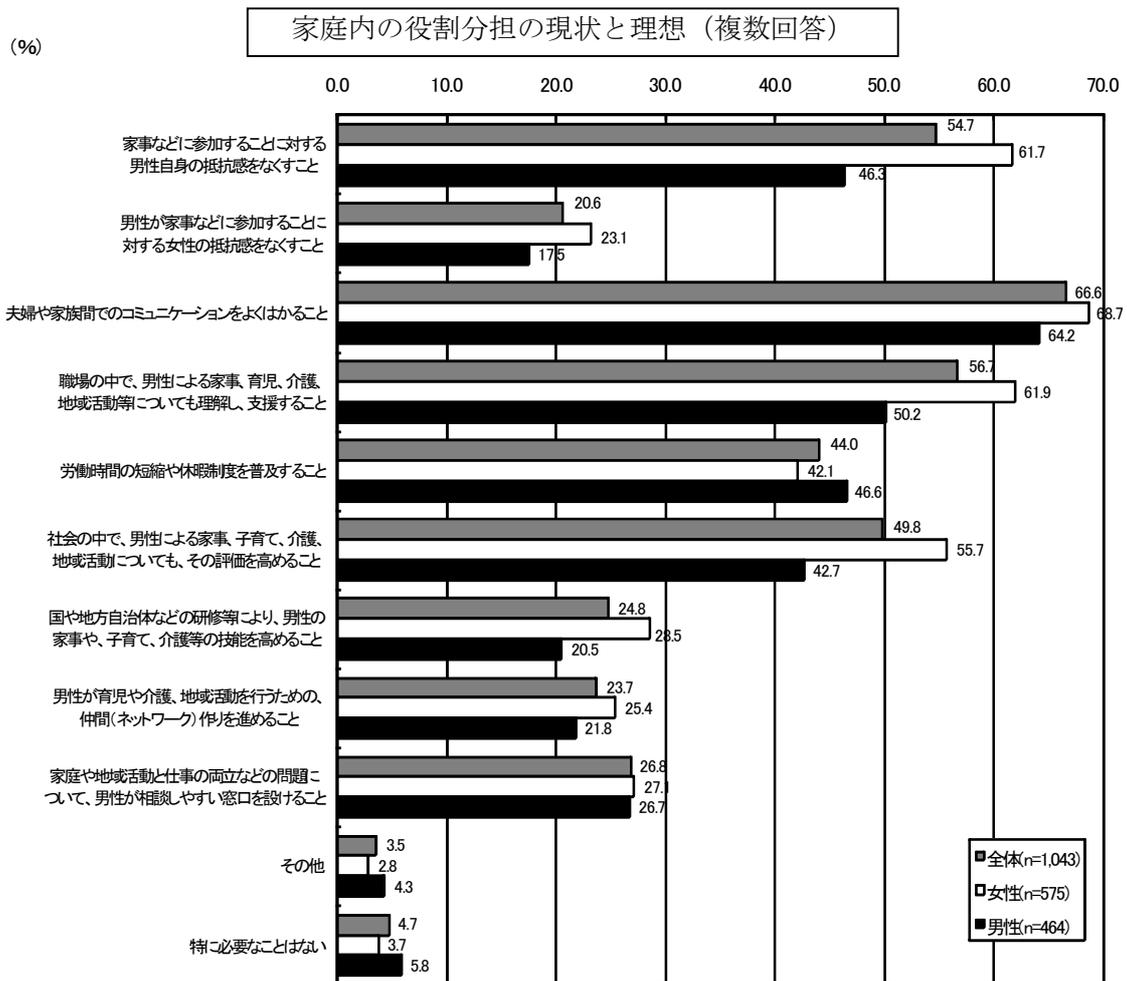
男女の地位の平等感（単一回答）



2. 家庭について

◆ 家事・育児などへの男性の参加を進めるために必要なこと

「家事・育児・介護・地域活動等への男性の参加を進めるために必要なこと」をたずねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が対象者の66.6%で最も多く、次いで「職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動等についても理解し、支援すること」(56.7%)、「家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(54.7%)となりました。「労働時間の短縮や休暇制度を普及すること」、「特に必要なことはない」の質問以外は、すべて男性より女性の回答率が高く、女性の関心度が高いことがうかがわれます。



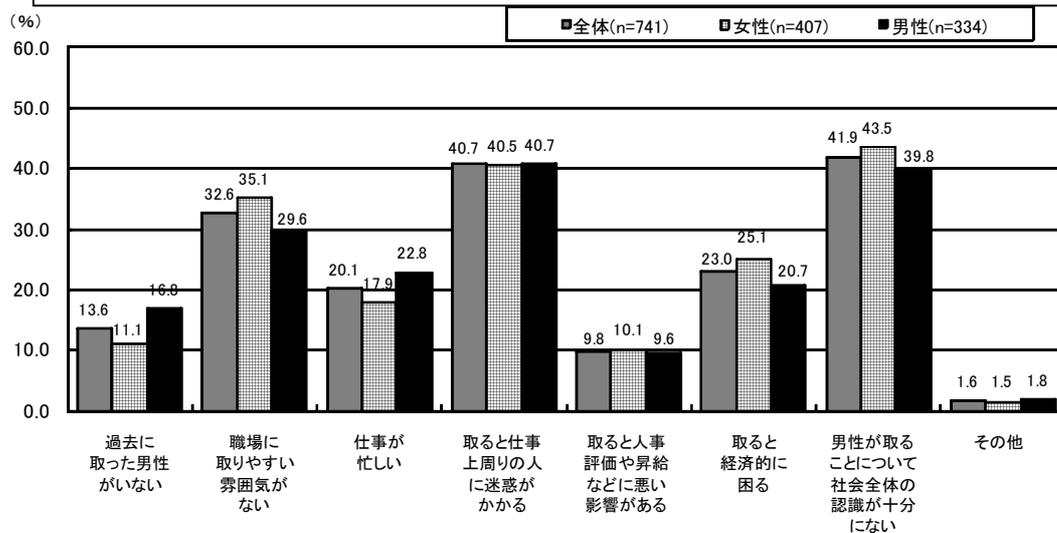
3. 仕事について

◆ 男性が育児休業などを取ることは賛成だが、現実には取りづらい

「男性が育児・介護休業を取ることができるが、このことについてどう思うか」の質問について、男女ともに「取ることは賛成だが、現実には取りづらい」が71.1%でもっとも高く、およそ4人に3人が賛成だが取りにくいと考えています。

そこで、理由についてたずねると、「男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない」(41.9%)、「取ると仕事上の人に迷惑がかかる」40.7%(前回 37.2%)、「職場に取りやすい雰囲気がない」(32.6%)などの回答率が高くなりました。

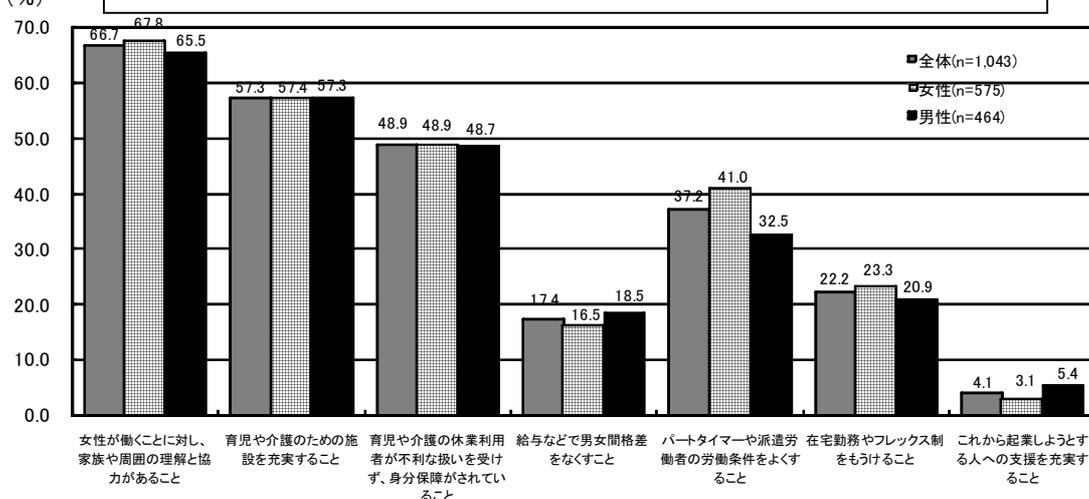
男性が育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらい理由（2つ回答）



◆ 女性が仕事を続けていくために必要な支援は

「女性が仕事を続けるためどのような支援改善が必要だとおもいますか」に対しては、「家族や周囲の理解と協力があること」(66.7%)、「育児や介護のための施設を充実すること」(57.3%)、「育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること」(48.9%)、「パートタイマーや派遣労働者の労働条件をよくすること」(37.2%)などが男女ともに高い数値となりました。

女性が仕事を続けていくためにどのような支援改善が必要か（2つ回答）



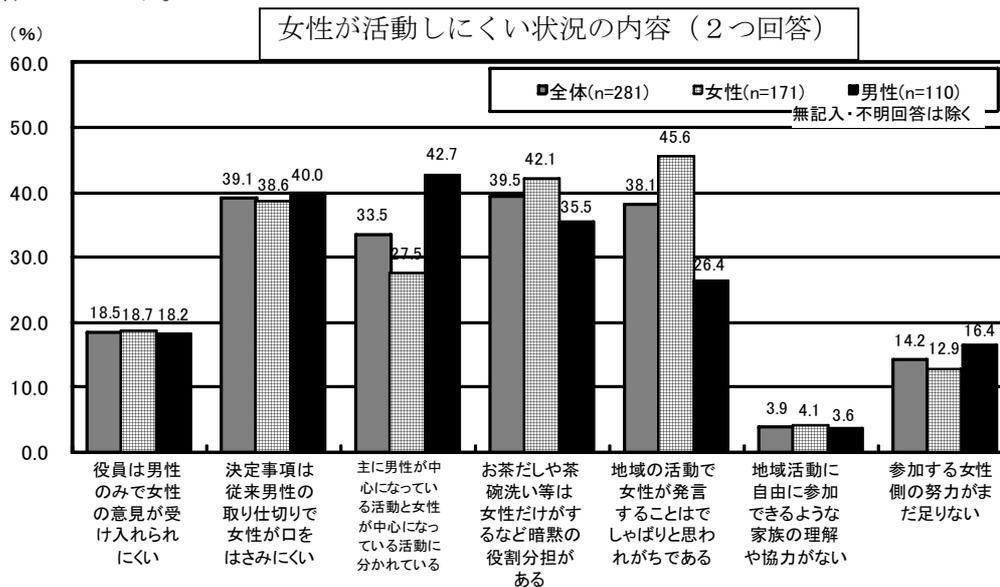
4. 地域活動について

◆ 女性が活動しにくい意識や慣習

「自治会などの地域の集まりや作業に女性が参加できにくい」と考えている方（288人、27.6%）に、「それはどのような雰囲気や状況ですか」とたずねました。

男女別にみると、女性は「地域の活動で女性が発言することはでしゃばりと思われがちである」（45.6%）の割合が前回（43.7%）同様に一番高くなりました。

一方、男性は「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので女性が口をはさみにくい」（40.0%）が前回調査（47.9%）に比べ減り、「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている」（42.7%）が前回調査（35.0%）に比べ増えています。



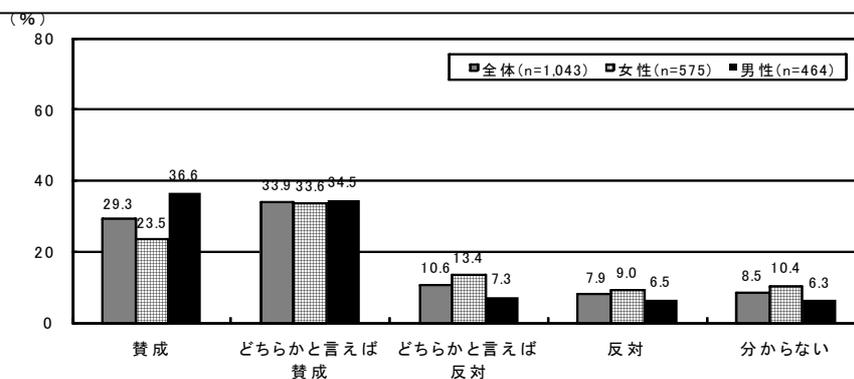
5. 子どもの教育について

◆ 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよいか

「子どものしつけや教育について、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよいか」については、「賛成」「どちらかと言えば賛成」をあわすと6割となっています。

男女別に見ると、「賛成」「どちらかと言えば賛成」が男性71.1%に対して女性は57.1%と男性は賛成率が高く、一方「どちらかと言えば反対」「反対」は、男性が13.8%に対して女性は22.4%で、女性は反対率が高くなりました。

女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる方がよい（単一回答）

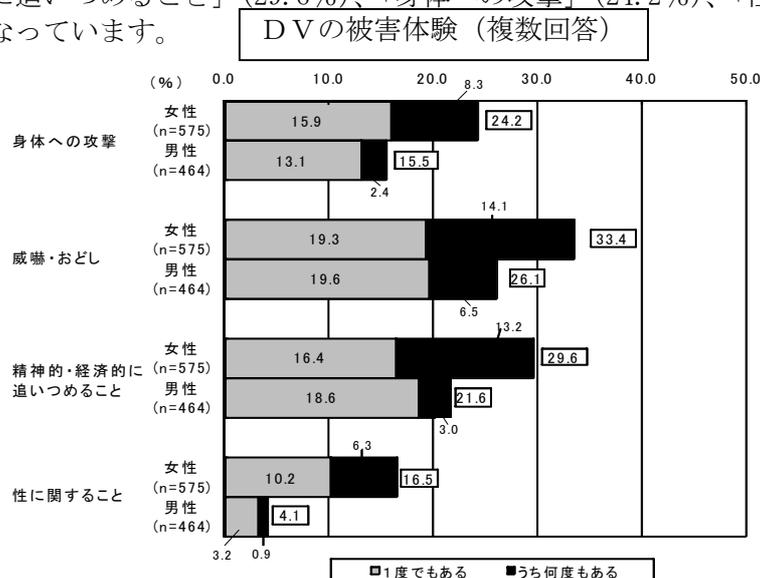


6. ドメスティック・バイオレンス（DV：夫婦・恋人間の暴力）について

◆ 全体の6人に1人が何度も被害体験あり

ドメスティック・バイオレンスの被害状況を「身体への攻撃」、「威嚇・おどし」、「精神的・経済的に追いつめること」、「性に関すること」に分けそれぞれ項目立てをし、この項目のいずれかの被害に「一度でもあった」と答えた人は 460 人・44.1%でした。そのうち一つでも「何度もある」と答えたのは 171 人（女性 128 人、男性 43 人）・16.4%で、全体の6人に1人が何度もあると答えています。女性については128人・22.3%で、5人に1人となります。

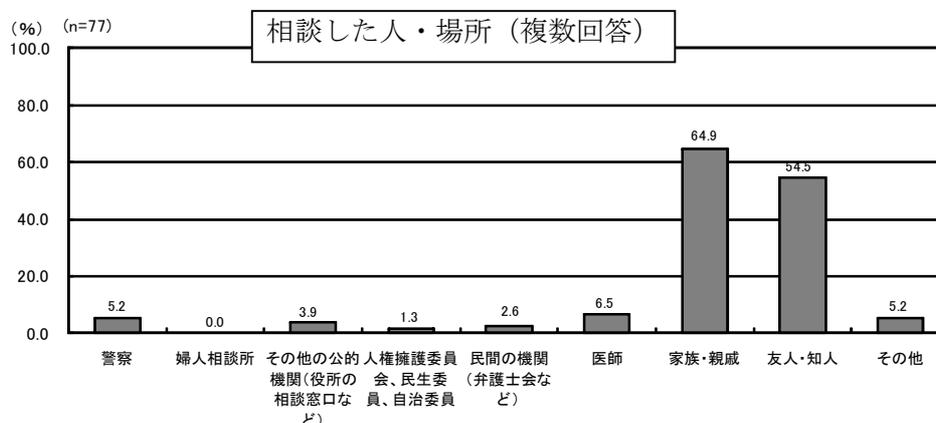
女性が受けた暴力の形態をみると、「威嚇・おどし」（33.4%）が最も多く、次いで「精神的・経済的に追いつめること」（29.6%）、「身体への攻撃」（24.2%）、「性に関すること」（16.5%）となっています。



◆ 相談は「家族・親族」「友人・知人」

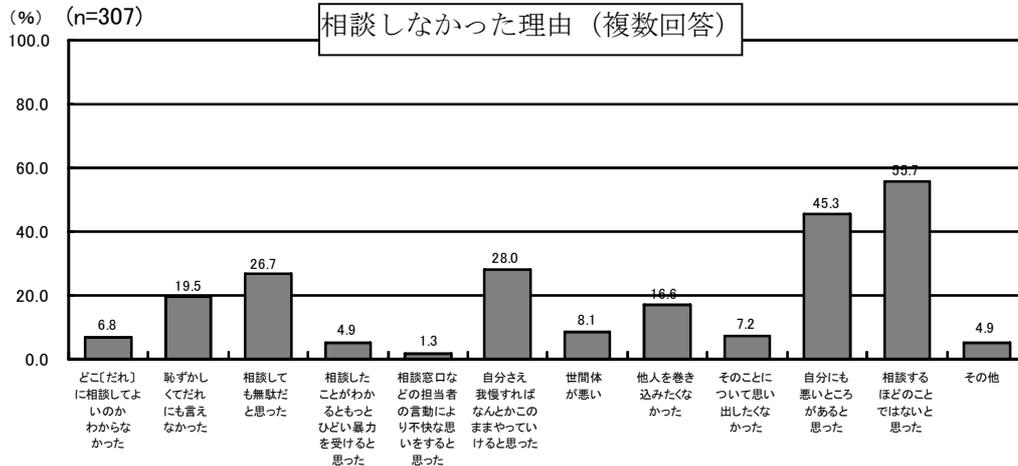
一度でも被害にあったと答えた人のうち、誰かに打ち明けたり相談したりしたのは 77 人・16.7%でした。

そのうち「どこに相談しましたか」については、「家族・親族」、「友人・知人」と答えた人が大変多く、公的機関等への相談は少ないことがわかります。



◆ 「相談するほどのことではない」「自分にも悪いところがある」という意識

被害者のうち「相談しなかった」と答えた方に理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思った」(55.7%)との回答が前回調査同様に最も多く占め、次いで「自分にも悪いところがあると思った」(45.3%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといった」(28.0%)、「相談しても無駄だと思った」(26.7%)、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」(19.5%)などの回答率が高くなりました。



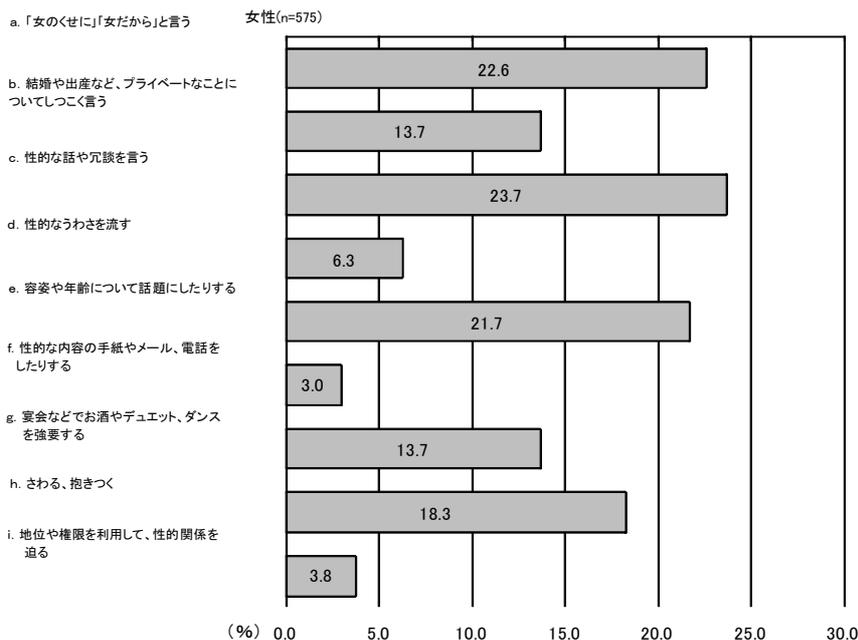
7. セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)

◆ 女性の4割が被害を体験

セクシュアル・ハラスメントの被害体験者は319人で、回答者全体の30.6%を占め、被害体験者に占める女性の割合は74.6%でした。男女別では女性が41.3%、男性が17%を占めています。

女性の被害体験の多かった項目は、「性的な話や冗談を言う」(23.7%)、「「女のくせに」「女だから」と言う」(22.6%)、「容姿や年齢について話題にしたりする」(21.7%)などです。

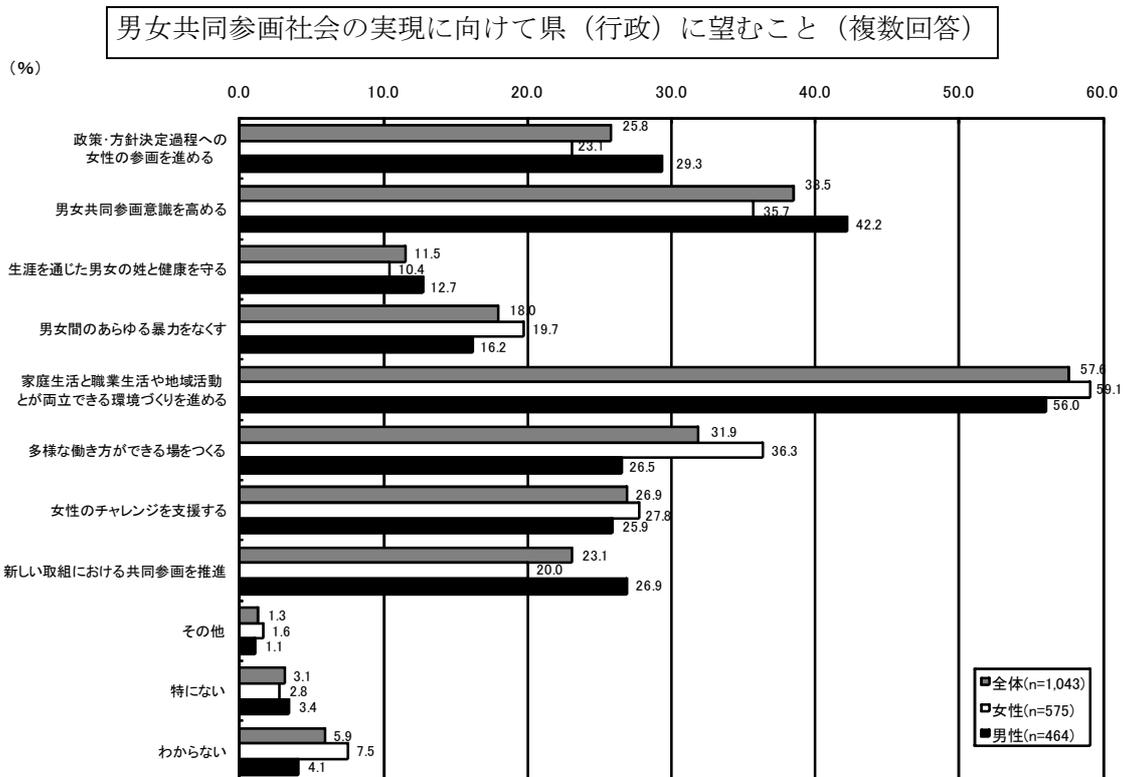
セクシュアル・ハラスメントの被害体験 (女性) (複数回答)



8. 男女共同参画社会の実現に向けて

◆ 家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくり

「男女共同参画社会の実現に向けて、県は今後どのような分野に力を入れていくべきだと思うか」に対して、男女ともに「家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進める」(57.6%)を望む声が高く、次いで「男女共同参画意識を高める」(38.5%)、「多様な働き方ができる場をつくる」(31.9%)、「女性のチャレンジを支援する」(26.9%)、「政策・方針決定過程への女性の参画を進める」(25.8%)、「科学技術、防災、地域おこし、環境といった新しい取組を必要とする分野における共同参画を推進」(23.1%)、「男女間のあらゆる暴力をなくす」(18.0%)などの声が多かった。



男女共同参画社会づくりのための意識調査報告書 概要版

平成 22 年 6 月発行

編集・発行者 大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課

〒870-0037 大分市東春日町 1-1

TEL : 097-534-2039

FAX : 097-534-2057

<http://www.pref.oita.jp/>